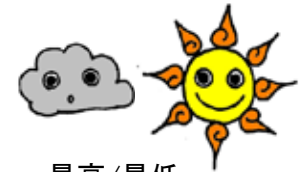


つくば Times

Vol. 1
2012.8.17

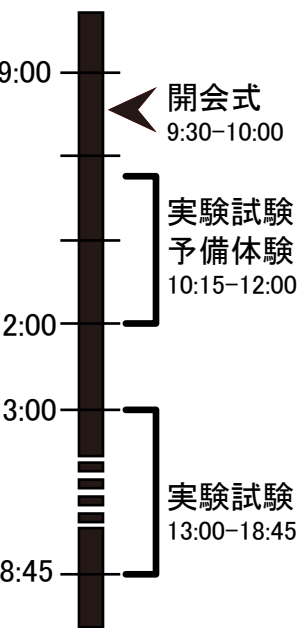


本日の天気



最高/最低
33°C/25°C

スケジュール



生物学の精鋭、集う

☆トイレの中までつくばTimes

129年ぶりの金環日食が見られた春も過ぎ去り、蝉の声が耳に心地よい夏となった。昨年度の国際生物学オリンピックはシンガポールで行われ、日本は4人の代表が現地へ赴いた。結果は、健闘の末出場選手全員が銀メダルを獲得した。

今年も国際生物学オリンピック出場選手選抜のための

「日本生物学オリンピック2012」 (生物チャレンジ2012)

二次試験が開催される。一次試験を通過した生物狂いの精鋭たちがここ筑波大学で更なる難題に挑戦する。選手たちは3泊4日で滞在し、国際大会に向けた実技試験を受けるとともに生物への興味を存分に刺激されるようなサイエンスカフェなどを楽しむ予定だ。ちなみに今回は、宇宙ステーション内の生物学的実験に関わっておられる矢野幸子先生(JAXA)にお話頂く。JAXAに務める彼女からどんな魅力的な話題が飛び出すのか楽しみだ。他にもお楽しみは用意されている。例えば筑波大学の教員自ら行う研究室での研究体験は、選手たちの好奇心を余すところなく満たしてくれることだろう。

つくばTimesはそんな多忙な選手へ、期間中は毎朝発行・配布される。選手に密着して様々な体験を共にし、一人一人の「生の」声を聞き、より選手たちのためになるものを

作り上げる予定だ。今後も研究室紹介や選手の感想、スケジュールや本日の天気まで網羅するつくばTimesに注目し、トイレの中にまで持ち込んで親しんでほしい。

(文・写真:戸祭)



早朝の金環日食



獲得した銀メダル <http://www.jbo-info.jp/>

今年は4年に1度のスポーツの祭典、オリンピックがロンドンで開催されました。眠い目をこすりながら夜遅くまで応援した人も少なくないでしょう。

さあ、次はみなさんが活躍する番です。生物学オリンピックは、全国から予選を勝ち抜いた選手が集う場であり、国際生物学オリンピックの日本代表選手選抜の場でもあります。みなさん、自分の力を信じて落ち着いて課題に取り組んでください。そしてなにより、この生物学オリンピックを楽しんでください。なにしろ、みなさんは互いにライバルであると同時に、生き物がとても魅力的な対象であることを、生物学が絶え

ず好奇心をかきたててくれる学問であることを、ともによく知っている仲間なのです。

色違いのユニホームを着た筑波大学の教職員や大学院生や大学生は、それぞれ役割は異なりますが、全員がみなさんの強力なサポーターです。そして全員がみなさんと同じように生き物の魅力に惹きつけられ、生物学を志す仲間です。この生物学オリンピックは、ここに集う仲間たちと親交を深めながら互いに学び合う絶好のチャンスです。選手のみなさん、私たちと一緒に生物学オリンピックを楽しみましょう。

う。この生物学オリンピックは、あなたと仲間たちのための生物学の祭典なのですから。Let's enjoy!

(文:筑波大・八畑)



SCIBOメンバー

Enjoy!
生物学オリンピック

スタッフ紹介



濱健夫先生
大会委員長です



和田洋先生
実験試験を取り仕
切っています

困ったときには、以下の担当スタッフに相談してください。

保健担当



大網一則先生
具合が悪いときは
こちらまで

食事・宿泊担当



桑山秀一、鶴田文憲先生
食事・宿泊について
の相談はこちらまで
(写真は桑山先生)



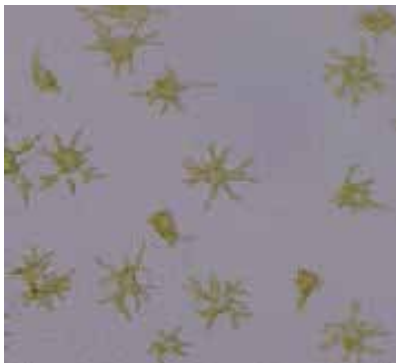
SCIBOリーダー・斉藤史織さん
試験期間中緊張すると思いますが、せつかくの機会
なので楽しんでください！私たち大学生に何でも聞いて
沢山お話ししましょうね！



SCIBOリーダー・遠藤智之くん
試験だと思わずに実験を一つ一つ楽しんで
ください。こちら楽しんでるような環境を
作るので一緒に楽しみましょう！

つくば研究室紹介Vol.1 植物系統分類研究室 (石田健一郎先生)

「植物・藻類の多様性と進化を探る」
私たちが普段の生活で目にする数々の植物や動物の世界には、すでに大きな多様性がある。しかし、実は、それ以上に大きく深い(そして時にクセになる)多様性が、顕微鏡レベルでしか観察できないような単細胞真核生物の世界には広がっている。生物の多様性をもたらした大きな原動力のひとつに“細胞内共生”がある。例えば、ミトコンドリアや葉緑体は、真核生物が原核生物を細胞内共生させる“一次共生”と呼ばれるイベントによって獲得された細胞小器官である。しかしながら、一次共生以外にも、数多くの光合成能力をもたない真核生物が、真核生物どうしの細胞内共生によって光合成能力を獲得したことが知られている。これは、光合成能



力がない真核生物が新たに光合成能力を獲得するという点において、“植物化”ともいえるイベントである。ミドリムシや珪藻、ワカメやコンブなどは、細胞内共生により“植物化”した生物のグループの一員である。

石田研究室では、このように植物化した生物のグループのうち、クロララクニオン藻類という“緑色のアメーバ”(写真)をもちいて、真核生物どうしの細胞内共生がどのようにして成立したのかを研究している。また、同研究室は、広く環境の中から未知の生物も探索し、新たに発見した生物の特徴や他の生物との進化的系統的関係を明らかにするための研究を行っている。誰にも気づかれることなく、泥の中や遠くの砂浜でひっそりと暮らし続けたかもしれない生物にスポットライトをあてるのである。(文・写真:白戸)

編集部より

今年も日本生物学オリンピック(生物チャレンジ2012)がこつくばで始まります。この生物チャレンジ2012はTeam-Jが大会の模様を余すことなくお伝え致します。とその前に、このジャーナルを発行しているTeam-Jとはどういう組織であるのか説明しましょう。

Team-Jとは、この生物チャレンジの模様を大会参加者だけではなく、Webを通して世界中の人々にも発信するために結成された組織です。取材から、撮影、記事の執筆構成そして皆さんへの配布まで、ほぼ学生が主体となって行なっています。ロンドンオリンピックはテレビ中継されていましたが、我々も負けず劣らず期間中の4日間、西へ東へ取材のために走り回り、この「つくばTimes」というジャーナルを発行します。それを通して皆さんに大会の模様、そして皆さんの『声』をほぼリアルタイムで、お伝えする予定です。

Team-Jは選手の皆さん、関係者へ突撃取材をします。突撃された皆さんは率直な意見を我々にください！皆さんの、その声が、表情が、明日の「つくばtimes」を鮮やかに彩ることになります！ここでちょこっとメンバー紹介をば。このメンバーが皆さんの元へ取材に行きます。

- 編集長:特に取材などには赴きません。影から見守っています。天パに眼鏡
- 菅原:フリーダム・マインドはつくばでも輝いている
- 戸祭:俺のカメラに最高の笑顔を。
- 杉山:眼鏡に天パをかけています。
- 中澤:選手たちの若さとパワーに負けぬように頑張ります。
- 阿部:暑さに負けず頑張ります！！私は歳なのでがんばりません
- 後藤:参加者からあふれ出る若さをもらって頑張りたいと思います！
- 白戸:眼鏡をかけています

他にも「Team-J」の腕章をつけた人たちがいたら、要チェックしてみてください！

以上の個性的なメンバーにより、このつくばtimesを毎朝発行していきます。このジャーナルによって皆さんの一日のスタートがより良いものになればいいなと編集部ともども思っています。明日の朝も乞うご期待！